

With コロナと企業の新戦略

静岡県中部未来懇話会

運営委員会・研究部会合同会議を開催

一般社団法人静岡県中部未来懇話会の「運営委員会・研究部会合同会議」が昨年12月14日、静岡市葵区のホテルアソシア静岡で開催された。運営委員7人、研究委員6人が出席し、2021年度の調査研究テーマ案「With コロナと企業の新戦略」について協議した。テーマ案は研究部会で検討を重ねたもので、同日の合同会議での意見を反映させて成案をつくり、1月29日に開く理事・運営委員・研究委員全体会で報告する。

合同会議では研究部会長の日詰一幸・静岡大人文社会科学部学部長がテーマ案の概要を説明した。その中で「新型コロナウイルス感染症が2020年に入ってから急速に全世界に拡大し

安定した経済活動探る

来年度研究テーマ協議

た。日本では1月16日に感染者が初めて確認された以降感染者がやむことはなく、4月7日に7都道府県に発出された緊急事態宣言は同日には全都道府県に拡大された。5月25日に解除されたが、この間外出自粛や営業自粛などが行われ、企



来年度の調査研究テーマを協議した運営委員会・研究部会合同会議。静岡市葵区のホテルアソシア静岡

業等の経済活動は大きく停滞し、地域経済に与えた影響は計り知れない。サプライチェーンも混乱した。その一方、在宅勤務等が推奨され、テレワーク等が本格的に導入されるようになった。ニューノーマル(新常态)時代の働き方とも言われるようになり、オフィス中心の勤務形態が見直され始めた」と社会状況の急激な変化を説明し、「21年度はコロナ感染を予防しつつも安定した経済活動を展開するための方策を検討していきたい」とテーマの狙いを強調した。

シンポジウムは第1回(春季・6月)を「サプライチェーンの再構築に向けて」、第2回(秋季・10月)を「デジタル化による人材活用」をテーマに開く。第1回は企業中心のシンポであること意識し、急激な社会変化、

変動に対応できるサプライチェーンの構築を議論する。とりわけ大きな社会変化、変動が起きた時に柔軟に機能できるサプライチェーンを構築するにはどうすべきか検討する。第2回はデジタル化の進展による企業等の人材活用の在り方を探る。

出席者からは新型コロナウイルスが企業業績にもたらした影響などが紹介され、「コロナに対する企業対応は終わった企業も多い。一般的には売り上げベースは前年比3割減ではないだろうか」とコロナの影響が非常に厳しかったとの指摘や本社と海外拠点、営業所間でウェブ会議を推進したこと、移動費用が削減できたといった事例も示された。テーマ案はコロナ禍の早期収束と今後の安定した経済活動に期待を込め、出席者の賛同を得た。